

景況感調査「沖縄点気」 ～2013年9月調査～

～71点でやや好調 観光、建設関連がけん引。堅調な入域観光客数の増加が寄与～

今回の9月調査では、前回6月調査に比べ1点高い71点となり「やや好調」の状態が続いている。要因としては、国内外観光客の増加や個人向け住宅の駆け込み需要、堅調な個人消費などが挙げられる。一方で、原材料価格の高騰、消費単価の低下などを背景に、利益確保へのハードルが高くなっているようだ。

関連分野別動向

観光関連 前回74点→今回78点

8月に入域観光客数が、沖縄観光初の月間70万人超えを記録し、業況は良い。円安傾向の継続、LCC路線の拡充等、受け入れ環境が向上していることに加え、昨年と比較すると、トップシーズンに台風襲来がなかったことも大きな要因だ。

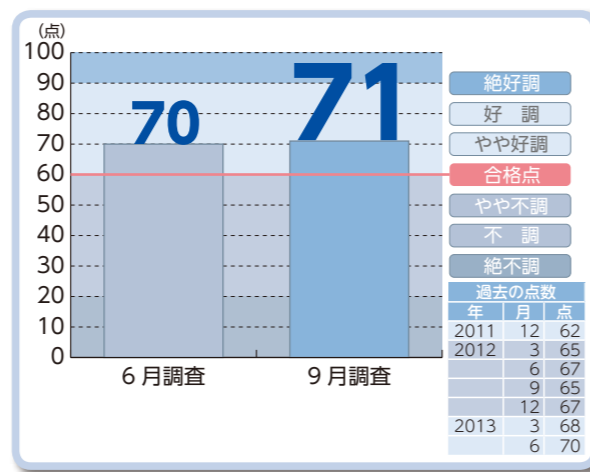
ただ競争激化や単価低下により、収益の確保を課題とする事業所も多い。

建設関連 前回77点→今回72点

消費税増税を控え、一戸建住宅及びマンションの建設・販売が引き続き好調を維持している。しかし、現場では人手不足が表面化しており、着工遅れ、工期遅れといった問題が出てきている。

食品関連 前回64点→今回67点

県民および観光客の消費は堅調に推移している。一方で、円安や小麦価格の上昇など、原材料価格高騰の問題があり、価格への転嫁加減をどう



するか、多くの事業者が頭を悩ませている。

消費・サービス関連 前回61点→今回66点

新車販売でレンタカー向け販売が好調である一方、個人向けではエコカー補助金終了の反動もあり前年比を下回っている。観光客の増加が飲食や小売業界にも好影響を及ぼしている。

「沖縄点気」…経済指標評価、県内企業30社程度へのヒアリング調査、社会情勢評価など、独自の手法により、それぞれ100点満点で評価し、加重平均することにより沖縄点気を算出。



経済指標評価

72点 (6月調査) → 73点 (9月調査)

	6月調査	9月調査
経済指標総合評価	72点	73点
観光関連	73点	87点
建設関連	83点	63点
食品関連	60点	70点
消費・サービス関連	63点	70点

ヒアリング評価

観光関連は、入域観光客数の増加により全体的に需要が増加している。ただ、ホテルでは価格競争により収益性の低下がみられる。建設関連では消費税増税前の山場を迎え、一戸建て、マンション販売ともに好調。反面、人手不足が表面化し、工期や着工の遅れが問題となっている。食品関連も、売上は伸びているが原材料の高騰により、値上げに踏み切る事業者も出ている。消費・サービス関連は、堅調に推移しているようだ。

※ 2013年6月調査時の点数が“-”の事業所は、前回調査非対応先

68点 (6月調査) → 70点 (9月調査)

指標(点数)の見方			
6月調査時の点数	9月調査時の点数	3カ月後の点数	
ヒアリング総合評価	68点	70点	70点
観光関連	72点	73点	70点
建設関連	71点	75点	74点
食品関連	64点	64点	69点
消費・サービス関連	59点	64点	64点

観光関連

72点 (6月調査) → 73点 (9月調査) → 70点 (3カ月後)

「ホテル」 60点→70点→65点	売上は前年比10%増。沖縄観光全体の好調が主な要因だろう。民泊の台頭や新規ホテル開業により、単価の良い修学旅行の受入が大幅に減少する見通し。個人客へのセールスを強化することで、穴埋めをしていきたい。外国人団体客にも予約の“まぎわ化”傾向がみられる。
「ホテル」 90点→90点→80点	台風の影響がなかったことなどにより売上は好調。秋以降もスポーツ団体等の受入が決まっており、好調さは持続しそう。トップシーズンだけでなく、オフシーズンにもMICEを誘客するなど、引き続き集客に力を入れていきたい。
「旅行会社」 90点→80点→80点	通常は2月が繁忙期だが、4月から9月にかけても2月並みの団体数を受け入れてきた。台湾-那覇の航空路便拡大効果もあって、団体観光客の増加が続いたため、バスやホテルの手配に苦労した。今後も予約は安定しており、11月までは現在の好調さを維持できそう。
「旅行会社」 70点→68点→68点	国内ではLCCの多い関西からの集客に苦労した。海外では台湾客の取扱が前年比80%増、ビザ発給要件が緩和されたタイも好調だ。全体の3割近くまで増えたとみられるLCC利用客の増加や、中国の旅游法改正に伴うショッピング規制影響が懸念材料。
「交通」 70点→65点→70点	団体向け観光バスでは、外国人団体受入の打診が多いが単価が低いと断っている。修学旅行向けのサービスに力を入れており、本土の学校や旅行社でも評判が良い。修学旅行の受注増につながっている。定期観光バスも好調。10～12月でバス台数不足が懸念される。
「レンタカー」 一点→80点→65点	石垣島の好調さが持続しているほか、台風による影響がなかったこと、LCCの増便などから、売上は前年比増であった。10月からオフシーズンに入るが、好調に推移する外国人観光客向けのサービスをさらに強化していく予定で、外国人スタッフの採用枠も拡大させた。
「レンタカー」 一点→80点→65点	台風による影響がなかったこと、LCCの増便などから、売上は前年比増であった。今年は、11月の3連休がひとつ減るため、その分の売上が落ち込むと予想されるが、円安の影響もあり、国内旅行については、しばらく追い風が続くと予想している。
「ウエディング」 65点→67点→70点	国内客は動きが少なく、大きな増減はない。海外客も6月までは順調に増加していたが、伸びが鈍化しシェアが20%から10%まで落ちた。ここしばらく海外ブライダルフェアが開催されていなかったのが要因のひとつ。近々ブライダルフェアが開催されるため、効果に期待したい。
「ウエディング」 65点→60点→65点	国内客は前年並み。海外客について、受入数は増加しており今後も香港、台湾客が増加すると見込まれる。新しく国内向けの安価な商品を展開しており、予約状況は上々だ。台湾については航空路線拡充効果が見込まれるが、多くは単価の低いフォトウエディング。

建設関連

71点 (6月調査) → 75点 (9月調査) → 74点 (3カ月後)

「建設資材」 75点→75点→80点	民間、公共工事とも受注は好調。業界全体が好調な半面、人手不足が表面化し、進捗が遅れ気味の工事も出てきた。公共工事における分離発注の弊害が大きい。電気や管工事は問題ないが、建設は入札が成立しない案件が多く、工事着工が遅れるケースも出てきた。
「建設資材」 65点→78点→80点	受注が好調。消費税増税を控え、近年にない驚異的な数字。ただし、型枠人材不足のため、工事着工に遅れが出始めている。9月は公共工事の受注ピークといわれており、人材不足がさらに深刻な状況になっている。
「電気工事」 一点→70点→70点	公共、民間とも受注は順調。ただし、公共工事では入札が不調になるケースが多くなっており、工事の進捗が遅れが出るケースも出てきた。業界では、現場監督等の国家資格を持つ人材の高齢化と、現場作業員の人材不足が深刻な問題となっている。

「建設」 60点→60点→60点	那覇と離島でマンションを建設中。マンションについては、売り手市場だと感じる。新都心で販売中の高層マンションの購買客は、県民も一定数を占めているようだ。公共工事発注は多いが、利益確保を慎重に見極める動きがあり、成約に至らないケースが多くなってきた。
「マンション」 70点→70点→70点	新しく分譲しているマンションの受注が好調。販売中の3分の1程度は契約・予約済み。今年は例年以上に販売開始から契約までの動きが早い。県内金融機関は、融資実行金利の積極的な優遇姿勢を見せており、不動産を購入するにはとても良い環境にある。
「住宅」 90点→95点→90点	受注や見積もり依頼は好調だが、昨今の人手不足のため工事の進捗に影響が出はじめています。一戸建て以外では老人ホームなどの受注も増えている。10月以降は消費税5%での契約が不可能なため、消費税増税の影響がどの程度出るのか、年末に向けて気になるところ。
「住宅」 65点→85点→70点	10月以降の契約件数の落ち込みは織り込み済み。消費税増税だけでなく、資材価格や建設人件費の高騰などもあり、適切に販売価格を設定しなければ、売上確保が難しくなる。現在は、土地活用を目的としたサービス付き高齢者向け住宅の建設にも力を入れている。
「アパート」 70点→70点→70点	9月は例年、売上が減少する時期ではあるが、今年は単月では過去最高の伸びを示し、好調さを維持している。ネットによる集客効果もある。賃貸物件を扱う本土企業の沖縄進出が数件みられる。年度内に完成しない物件については、来年度の集客への影響が懸念される。
「不動産」 75点→75点→80点	売上は好調。不動産部門については県外企業の県内進出に向けた問い合わせが多い。県外大手企業では景気回復の恩恵を受け始めているのか、設備投資を行う動きが出始めているように感じる。ただ、店舗の賃貸物件については、入居率が依然として厳しい地域もある。

食品関連



「食品製造」 55点→60点→80点	新しい業務体制を構築中。九州の酒造所と連携し、地域内の4つの酒造所とゆいレールとタイアップしたスタンブラリーを展開するなど、泡盛の認知度向上のため、他社を巻き込んだ取り組みも強化している。
「食品製造」 90点→90点→95点	客単価は上昇しているものの、客数の減少がみられる。那覇の店舗は外国人観光客、特に台湾からの客の入り込みが好調。クルーズ船寄港時などに送迎バスなどを出するなど丁寧に誘客した効果だと考えられる。料飲部門は広告効果もあり、好調となっている。
「食品製造」 60点→65点→65点	売上は前年比10%増。観光客数が増加したことにより特に空港での販売が好調に推移した。国際通りの店舗もメディア露出の効果があり売上が伸びてきている。原材料価格の上昇に伴い、半年以内には実質的な値上げを実施する予定。
「食品製造」 50点→52点→54点	売上は前年より好調。特に8月は観光客向けの販売が好調となっている。お中元販売も目標を上回った。ネットでの売上は好調だが、今後はさらにB to Cを強化していく予定で、全国各地でプロモーションなどを展開している。
「食品製造」 一点→60点→60点	売上は前年並み。円安の影響もあり、原材料価格が高騰している。上昇分を価格に転嫁できるかどうか検討している。健康志向の高まりもあるので、そのような消費者ニーズに合った新商品の開発などに取り組んでいきたい。
「食品製造」 60点→60点→60点	原材料価格の上昇により、7月から商品を値上げした結果、売上はやや増加している。ただ、すべての原価上昇分を価格転嫁できていないので、利益は前年並みかやや減少。10月以降も小麦価格が上昇するが価格転嫁は難しいだろう。消費税増税を控え、環境は厳しい。
「漁業」 60点→55点→55点	マグロの漁獲量は前年並み。燃料費価格の高騰を受けて、マグロ価格も上昇しているが燃料コストをカバーできるほどではない。最近台風が多いため出漁できない漁船が多く、今後も厳しい。マグロ価格がコストに合った適正価格まで上がってほしい。
「農業」 70点→70点→85点	マンゴーは台風の影響が少なかったため前年より好調となっている。その他、夏場の少雨の影響でイモの品質が落ちているようだ。ただ、収穫量が多かったため加工メーカーは例年よりも在庫を多く抱えている。今後はイモの消費量を増やすための商品開発が重要。

消費・サービス関連



「外食」 60点→65点→65点	前年比8～9%の売上増だが、台風が来なかったことを考えると、実質前年並み。10月以降の団体客については、順調に予約を受け付けている。消費の傾向は、高価格帯と低価格帯に二極化。大型ショッピングセンターに入居する県民向け店舗は、数字は横ばい。
「外食」 一点→65点→65点	観光客が好調であることに加え、地元客が戻ってきた。Facebookページの運営に力を入れたことに加え、スタンプカードや高付加価値商品を導入するなどの複合的な取組の成果が出た。原材料の仕入れ価格は上昇してきているが、販売価格は若干の値上げにとどめている。
「小売」 一点→60点→55点	前年比増だが、計画比では95%程度。食品は飲料や果物が好調だが、野菜の高騰が足を引っばっている。衣料品もかりゆしウェアや肌着を中心に好調。外国客が増えており、銀聯カードの利用率が上昇した。外国からの個人観光客の増加にあわせ、外国語表示を強化中。

「中古車販売」 一点→60点→60点	売上、販売台数ともに前年比横ばい。ハイブリッド車の人気も落ち着いてきた。この時期は、低予算の顧客が多く、売上の維持が大変な時期。引き続きメーカーによる実質値引きが行われているが、客足の増減は感じない。仕入環境は以前よりも価格が落ち着きつつある。
「中古車販売」 60点→60点→60点	現在は閑散期だが、前年比では同程度の来店・販売状況。引き続き軽自動車の売れ行きが好調だが、これまで軽自動車を取り扱ってこなかった各社が軽自動車の開発に参画するなどメーカー間の競争は厳しい。
「自動車販売」 45点→70点→70点	エコカー補助金の恩恵があった去年と比べても、売上は90%程度と、思ったより落ち込みが小さく済んだ印象。レンタカー向けの販売が好調で、自家用車の落ち込みをカバーしている。ハイブリッド車は新型モデルやモデルチェンジで動きが活発化している。
「IT」 70点→70点→70点	前年比で20～30%売上増。好調に受注できている。来年の消費税率引き上げ対応や、OSのサポート期間終了によるリプレイス案件が伸びていることが主な要因だが、景気が良いことも影響している。受注案件の半数が観光業界。小売業界も以前より前向きな話ができてきている。
「IT」 60点→65点→65点	昨年よりも売上は上向き。案件の選別を行ったことで、利益率は上がってきている。セグメント別でもそれぞれに芽が出てきている。現在はタブレット端末に関するソリューションについての引き合いが多く、これから成果が出てきそう。

社会情勢評価

入域観光客数は堅調に増加しており、観光や消費関連に好影響を及ぼしている。しかし、10月前半の2度に渡る台風襲来があったため、観光分野の落ち込みが想定される。消費税増税による駆け込み需要があった戸建住宅およびマンション販売については、好調さが一段落すると思われる。食品関連は原材料の高騰による値上げが本格化すると考えられる。消費関連は、自動車販売が比較的堅調。IT業界では受注の増加が続きそうだ。



	6月調査		9月調査	
社会情勢総合評価	74点	73点	3カ月後	加算減算項目
観光関連	78点	76点	70点	6点
建設関連	82点	79点	74点	5点
食品関連	71点	72点	69点	3点
消費・サービス関連	65点	66点	64点	2点

※ヒアリング調査における3カ月後の見通しに、今後の社会情勢を弊社にて加味し、加算減算したものの

観光関連



●プラス要因	●マイナス要因
1. 円安続伸による観光客増加	1. ホテル客室の供給過剰と価格競争の激化
2. LCC 就航・路線拡充による観光客増加	2. 消費単価の減少
3. 新石垣空港開港による観光客増加	3. 集中的な台風襲来
4. 海外客の増加 (前年比約30%増)	

食品関連



●プラス要因	●マイナス要因
1. 県民の堅調な個人消費	1. 原材料価格の上昇による原価の押し上げ
2. 円安に伴う観光客増加による売上増への期待	2. 商品値上げによる、消費者離れの懸念
3. 好調に推移する県外における沖縄商品の売上	

建設関連



●プラス要因	●マイナス要因
1. マンション・一戸建て住宅の堅調な需要	1. 工事着工や工期の遅れ
2. 賃貸物件需要の増加	2. 型枠等の人材不足と賃金高騰
3. 低金利の住宅ローン	3. 資材の高騰
4. 金融機関の積極的な融資姿勢	4. 過剰ぎみなマンション建設
	5. 9月以降受注の落ち込みの懸念

消費・サービス関連



●プラス要因	●マイナス要因
1. IT業界好調による人材獲得競争増加	1. ガソリン価格の高騰
2. 観光客の消費は好調に推移	2. 世界的な生産コスト上昇に伴う販売価格の上昇の可能性
3. 人口増加による小売業の好調	3. 8カ月連続となる電気料金の値上げ
4. 植物工場による野菜価格・質の安定化	4. エコカー補助金終了後の反動による需要減